

百年史紀要の発行にあたって

立命館総長・立命館百年史編纂委員会委員長 大南 正 瑛

立命館は、一八六九(明治二年)に西園寺公望の、自由・平等・進取を尊ぶ私塾として創始され、この精神を受け継いで、私立京都法政学校が中川小十郎によって創立されて以来、激しい社会変動のこの世紀をのりこえ、大学・高校で二二万人を超える卒業生を社会に送り出し、在学生二万数千人規模を誇る総合学園へと発展してまいりました。

一九九〇年には、立命館創始一二〇年・学園創立九〇周年を迎え、学内外各界各層の方々のご協力を得て、記念事業を滞りなく終えたところですが、七年後に迎える学園創立百周年にむけて、この学園の歴史と伝統を新しい世紀にしっかりと引き継ぐために百年史編纂にとりかかっています。

いま本学園は、「びわこ・くさつキャンパス」(仮称)への理工学部拡充移転や衣笠キャンパスにおける政策科学部設置計画をはじめとする第四次長期計画(一九九一―九八年)をスタートさせ、二一世紀社会に貢献し、人類の幸福に寄与できる、世界的水準の教育・研究力量をもつ総合学園創造への展望をきりひらこうとしています。その際、幾多の困難を克服しつつ発展を遂げてきた過去の教訓をいかしていく必要がありますが、「立命館百年史」編纂のとりにくみはそのような教訓と学園の将来への指針を与えてくれるものと期待しています。

また、学園史の研究は単なる立命館学園にとどまらず、学術史や教育史へのひろがりをもつことによつて、社会的・学問的にも貢献できるものと期待しています。研究は未だ緒についたばかりですが、本紀要も号を重ねるにしたがつて、充実させていきたいと考えています。どうか皆さんのご批判とご援助を仰ぎたいと存じます。